



Monthly Pediatrics News Letter

第84号

令和6年4月

発行：産業医科大学小児科学教室

作成者：桑村真美、守田弘美（小児科通信係）

<はじめに>

産業医科大学小児科医局員、小児科入局を表明している初期研修医・学生の皆さん、日ごろの業務および勉強ご苦労様です。

今回から小児科通信は、私(桑村)と守田が担当します。どうぞよろしく願い致します。4月から産医大小児科は深野 玲司教授、3年目の宮地 秀途先生、照喜名 従真先生をお迎えし、新体制となりました。新しく来られた先生方からのメッセージは次号を予定しておりますので乞うご期待ください。新たな門出を迎えられた方も多いことと思います。皆さん慣れない環境で大変なことも多いと思いますが、時々息抜きしながら頑張ってくださいね。

毎月配信しております小児科通信をお送りします。今回も大学で行われたイベントや学会参加予定などをお知らせします。小児科入局を表明していただいた学生の皆さんと当教室に興味を持っていただき見学に来られた学生さんと先生にもお送りしております。提供する情報に興味を持っていただけると嬉しいです。

通信を読んだ感想やご意見・ご要望を小児科通信制作担当者：桑村
(maeguchi06@med.uoeh-u.ac.jp) までお寄せください。



(左から照喜名 従真先生、深野 玲司教授、宮地 秀途先生)

<3月の医局行事>

3月4日 第17回八幡地区病院小児科合同カンファレンス

年2回(9月、3月)に八幡地区の小児科診療を行っている病院間で合同カンファレンスを行っています。今回は「便通異常のある小児の原因(診断)・治療」というテーマで、JCHO九州病院小児科 大村 隼也 先生より「排便コントロールに難渋したうっ滞性腸炎の3例」、北九州市立八幡病院小児科 竹井 文哉 先生より「集中治療室での管理を要した重症下痢症の乳児例」、産業医科大学小児科 村川 沙織 先生より「幼児期に Peutz-Jeghers 症候群と診断され、思春期に巨大結腸症を契機に Hirschsprung 病の合併が判明した1例」という症例発表が行われました。

3月6日 産業医科大学卒業式

今年は5年ぶりに制限なしで行われました。卒業生祝賀会も盛大に行われました。卒業された6年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

3月17日 第11回 にじの会(1型糖尿病患者会) 以下は多久葵先生からの報告です

1型糖尿病患者会を産業医科大学で今年も開催しました。4施設より2歳から50歳までの糖尿病患者13名、患者家族、医療従事者含め54名の方が参加されました。今回は、1型糖尿病患者からの体験談として写真家として活躍されている太田晃司さんより入退院を繰り返した幼少期、1型糖尿病を敵視していた思春期、社会に出るために1型糖尿病と全力で向き合い共に歩むことができるようになった現在についてお話していただきました。また、「Type1 Unity」という1型糖尿病の子供たちの学校生活を支える団体の方からは活動紹介を、前回妊娠報告をしてくださった小児期発症の31歳の女性の方からは出産報告を、池上朋未先生からは災害時対策の情報提供が行われました。その後子供たちと保護者がいくつかのグループに分かれてグループディスカッションも行いました。1型糖尿病は生涯にわたり毎日のインスリン自己注射が必要であり、抱える問題も年齢毎に変化します。患児や家族同士が交流し、思いを共有する場は大変重要です。今後も年に1回程度患者会を行っていく予定ですので、ご興味のある方はぜひ内分泌グループにお声かけください。



写真の提示は参加者からの許可を得ています。

3月19日 小児科大送別会

今年度で医局を離られる保科先生、中島先生、斉宮先生を送別する会が、黒崎の「はつしろ」で開催されました。医局長福田先生の温かい言葉から始まり、若手の先生方の趣向を凝らしたメッセージやビデオレターなど、送別される先生方への感謝の気持ちが込められた温かい会でした。名残惜しくはありますが、医局員一同、3人の先生方の更なるご活躍をお祈り申し上げます。



3月28日 産業医科大学小児科セミナー

担当は清水先生、眞鍋先生（循環器）で、「小児心臓カテーテル治療-その症例、カテーテルで治療できるかも-」というテーマで発表しました。

<4月の医局行事予定>

4月16日 深野教授より医局員向けの zoom 講演

4月19-21日 第127回日本小児科学会学術集会

年1回開催される小児科学会の全国集会です。今年は福岡市のヒルトン福岡シーホークで行われます。当教室からも多くの先生方が発表されます。福岡県内での開催ですので学生さんも参加しやすいと思います。学生さんで参加希望の方はご連絡ください。

4月25日 18時～ 産業医科大学小児科セミナー

演題名： 新規ワクチンの現状と今後の展望

演者： 感染・免疫グループ 多久佳祐、川村卓、高橋光

場所 産業医科大学2号館2階 2208教室

4月16日の深野教授の講演および25日開催のセミナーは、会場とZoomを使ったWeb配信のハイブリッド開催です。遠方からも聴講できますので、興味のある方は医局まで連絡してください。視聴方法をお知らせします。

<4・5月開催予定の学会・研究会>

4月および5月上旬に医局員が参加する予定の学会・研究会をお知らせします。

4月19-21日 第127回日本小児科学会学術集会

(福岡・ヒルトン福岡シーホーク)

発表予定者：米田、小川、五十嵐、多久(葵)、浅井、川村、永汐

上記に興味があり、参加を希望される方および詳細を聞きたい方は、小児科医局に電話(093-691-7254)をいただくか、メール(maeguchi06@med.uoeh-u.ac.jp)をお送りください。学会参加費を補助することも検討しています。

<論文掲載情報>

当科医局員が筆頭著者もしくは共著者として名前の入っている論文の掲載情報です(2・3月掲載分)。小児科専門医取得のためには、自身が筆頭著者である論文が必要になります。当教室では、修練医にも積極的に論文作成に携わってもらい、専門医試験の受験資格をクリアできるよう指導しています。また、できるだけ英文雑誌への投稿を勧めます(PubMedに自分の名前が出てくると嬉しいですよ)。このことは、市中の総合病院ではなかなかできない利点だと思います。論文を作成することで、より理論的な考え方ができるようになります。診療の視点を広げるためにも、論文作成に積極的に取り組みましょう。

1. Tanase-Nakao K, Iwahashi-Odano M, Sugisawa C, Abe K, Muroya K, Yamamoto Y, Kawada Y, Mushimoto Y, Ohkubo K, Kinjo S, Shimura K, Aoyama K, Mizuno H, Hotsubo T, Takahashi C, Isojima T, Kina Y, Takakuwa S, Hamada J, Sawaki M, Shigehara K, Sugimoto S, Etani Y, Narumi-Wakayama H, Mine Y, Hasegawa T, Hishinuma A, Narumi S. Genotype-Phenotype Correlations in Thirty Japanese Patients with Congenital Hypothyroidism Attributable to TG Defects. J Clin Endocrinol Metab. 2024 : dgae098

<おわりに>

小児科通信第 84 号はいかがでしたか。保科先生が長年続けて来られた思い出のある小児科通信ですので、今後も大切に引き継いでいきたいと思います。学生さん、研修医、修練医の皆さんは日々の勉強や診療で忙しいと思いますが、この小児科通信に少しでも目を通してもらえると嬉しいです。

私事ではありますが、この春に長女が小学校に入学しました。母親としては喜びと不安、そして感慨深さで胸がいっぱいです。同時に、私自身も約 7 年ぶりに大学の小児科病棟での勤務を再開しました。新しい環境への適応は決して簡単ではありませんが、そこから得られるものは大きいと信じています。この春、新たな挑戦に取り組んでいる皆さんもいることでしょう。一緒に頑張りましょう。

文責：桑村 真美、守田 弘美（小児科通信係）